

7. 更なる高品質化へ向けた考察 “新しい枠組み例①”

現状の材料リサイクルの状況を打開する一つのヒントとしてドイツのソーティングセンターがある。

	排出・収集	ソーティング・センター	再生
ドイツ	紙・缶・プラPET	紙パック、缶 PE, PP, PS, PET, および Mix プラ、 残渣に選別。	単一素材は材料リサイクルへ Mix はケミカルおよび材料リサイクルへ 汚れたプラおよび残渣はエネルギーリカバリーへ
日本	プラ適合物	上記までの機能の施設は存在しない	再生手法は落札による 材料RではPE・PP Mixのまま再利用

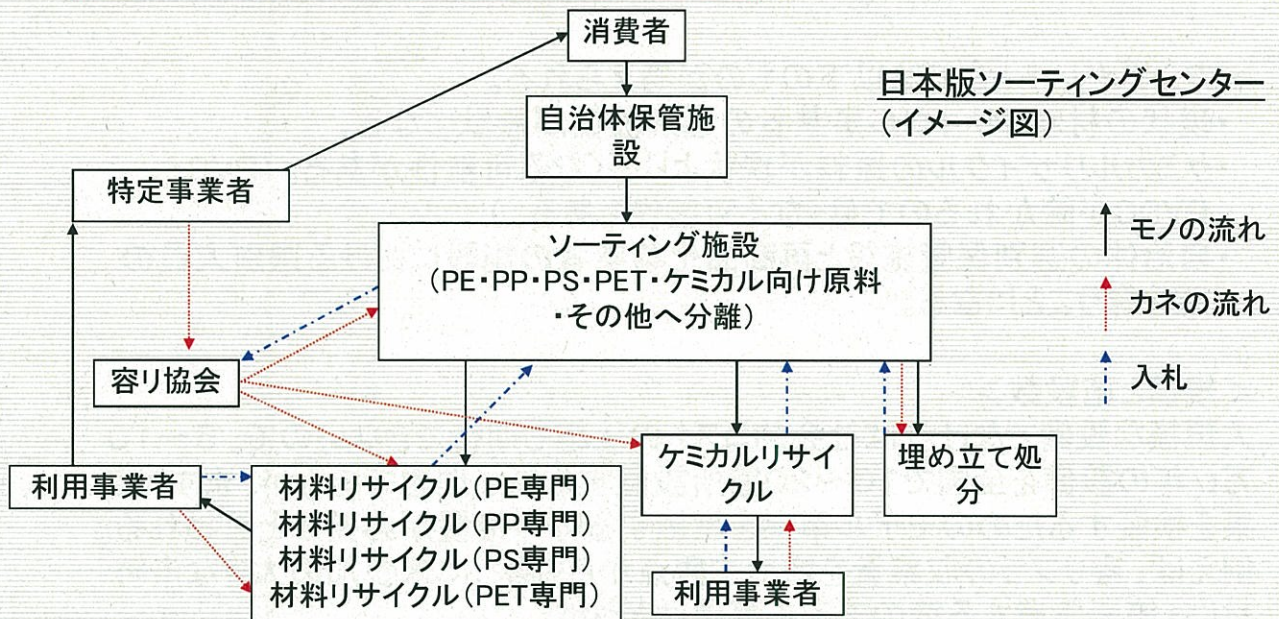
独・日 容器包装 収集～リサイクルスキームの比較概要(現状)

平成19年8月 日本容器包装リサイクル協会報告書より抜粋

日本の場合紙・缶・PETはすでに分別されているので、プラスチックのみのソーティングセンターが考えられる。

29

7. 更なる高品質化へ向けた考察 “新しい枠組み例②”



30

7. 更なる高品質化へ向けた考察 “新しい枠組み例③”

5万t以上の処理能力を持つソーティングセンターで選別を合理化すれば、

- ・自治体の選別保管施設の選別費用を圧縮できる。
- ・再商品化事業者が担っている選別工程が合理化され、選別コスト下がる。
- ・品質が同一で安定した量のペレットが生産され、利用事業者が利用しやすくなる。
- ・材料リサイクルの再商品化製品の売価が上がる。
- ・材料リサイクルの用途が拡大する。
- ・材料リサイクルのバージン代替率が向上する。
- ・材料：ケミカルのシェアを技術的根拠により分割できる。
(材料リサイクルに向けた素材とケミカルリサイクルに向けた素材の分離)
- ・社会的総コストが低減できる。

等のメリットが期待できる。

31

7. 更なる高品質化へ向けた考察 “新しい枠組み例④”

一方、デメリットとしては以下のものが考えられる。

- ・現状の材料リサイクル事業者の選別設備が無駄になる。
- ・ケミカルリサイクルの原料が現状より悪くなる可能性がある。(PVC・PVDCが除かれるので良くなる可能性もある。)
- ・自治体の選別保管施設と再商品化事業者の施設における選別人員の職を奪うことになる。

＜規模と施設数＞

大規模な設備でなければ社会的コストの圧縮も期待できないので、5～10万t/年の設備を全国で10～20箇所設置するのが理想であるが、まずは効果を検証するためのモデル事業を実施する等の措置が必要かと思われる。例えば、容リプラの収集量を増やす観点からも容りに未参加の大きな市町村に1箇所設置する等のモデル事業はどうか。

32